

序論

1980年代には、日本は世界の経済支配を始めた。この期間はバブル経済として知られている。バブル経済の社会生活にはサラリーマンの姿と密接にあった。この時代のサラリーマンのステレオタイプは一生懸命働いた日本の幹部であった。暇があつたら、それらのアクティビティは酒宴であり、高級レストランで食事し、高級車を運転し、ブランド品を買うためにお金を使い、そして町の外で夜旅することだった。サラリーマンのイメージはバブル経済に男性であること概念を表すことになっている。日本のサラリーマンの男性らしさは、覇権的男らしさとして知られている。そのような覇権的男らしさは、攻撃性、強度、野心、独立といったものを指している。

1991年1月には、バブル経済がついに台無しになった。バブル経済が終わった後でサラリーマン男らしさの伝統的な考え方を拒絶した新世代が現れる。サラリーマンの男らしさのステレオタイプは、いわゆる世代草食系男子に変更された。草食系男子というのは、最近の日本では生活の中でより受動的な男性の数を表す用語である。むしろ彼らは女性を追いかけるのではなく、自宅でリラックスしたり、そして趣味やファッションにそのエネルギーをそらす。女々しいというのは、男性のスタイル、メナー、そしてフェミニンなしぐさのグループの特徴である。

日本のマスメディアには、草食系男子が今日の日本女性に好まれている男として導入されている。テーマとしてこの傾向を拾ったメディアの一つは、オトメン「乙女」ドラマである。オトメンは女々しい男性という意味である。

本論

オトメンドラマは、日本男子のために日本の若い男性の需要を反映したものである。これらの要求に応答して、このドラマは、伝統的な日本の資質の男性がメインキャラクターとして、飛鳥の闘争を通じて挑戦と再交渉されているフォームを作成する。日本男子になることを誓って、飛鳥はそのような料理や裁縫など、彼の女性の資質を隠す。

第1話 (00:20:28)

“誰にも見せてはいけない、絶対に隠しそうなければいけない。あの日おれは誓ったのだ、本当の自分の隠し、どんな時も誰よりも、凛々しく男らしい、日本男しになると。”

彼がみやこずか涼という転校生が好き時に、その後飛鳥の身元は徐々に知られている。このドラマの詳細は、二人のロマンチックな関係と、相互理解と、受け取りを構築するために苦勞を示している。たが、飛鳥の剣道の能力には彼が男性のような見られて、飛鳥の女性の質は他人を助けることができるものである。そのことから、飛鳥が魅力的な人間になっている。理想的な男性として飛鳥を示すことによつて、オトメンドラマは、飛鳥で表される男らしさの代替形式を認識する。

このドラマにも、草食系男子と同性愛者「ゲイ」の女性の資質の違いを示すことができる。オトメンドラマによつて重要なメッセージを伝達されるべきは、男は少し女らしいに見える場合は必ずしも彼がゲイだったという意味ではない。

前世代では、男らしさの概念は、男らしさを反映している動作と外観によって制限される。このドラマには、そのコンセプトが涼の父さんの原則に反映されている。

第2話 (00:08:26)

涼 : すいません。父は男らしい人が一番こだわるたちなんです、強くとも男らしい人以外、男として認めないって。

しかし、このドラマにおける特徴は、男らしさの代替概念の高意識を示したことは否定できない。

第2話 (00:22:01)

銃多 : 何悩んだ顔しての飛鳥ちゃん？ わかんあいなあ、何で隠しての？ な、本当の自分知られたら嫌われてる思ってた？

飛鳥 : お、何の^{なん}ことだ？

銃多 : 料理も裁縫も特異、それでふあふあきらきらなラブリー小物い、甘いスイーツも大好き。そんな乙女チックがしみ思ってる、飛鳥ちゃんのこと^きに決まってんじや。

飛鳥 : お前、どうしてそれを？

銃多 : 飛鳥ちゃんはさあ、乙男なんだよね。

飛鳥 : 乙男？

銃多 : そう、女の子になりたいいうわけじゃないけど、マインドがどうにも乙女チックなたし、それが乙男！

飛鳥 : 乙男、あつ、そんなもの男として恥ずべきことだ。

銃多 : そうかな。俺はそう思わないけどな、むしろ、草食系理想の男子でしょう。

上記に書いたある、草食系男子はいろいろ女性の資質を持っているが、それらが理想的な男性のタイプと見なされていることを伝える。この理想的な男性は、男らしさの強力なキャラクターの制約によって設定されていないことを表示される。

結論

オトメンドラマは、メディアの否定的な批判から草食系男子を守るための手段として見ることができる。草食系男子も、理想的な男性と恋人のタイプとしていわれて、社会的制約から自由である人のため女性と男性の自然を組み合わせの務めていた。彼らはいろいろを示すことが男女の役割を破る試みではなく、でも個々の選択を作成することができる。

DAFTAR ISI

Kata Pengantar	i
Daftar Isi	v
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1. Latar Belakang Masalah	1
1.2. Pembatasan Masalah	7
1.3. Tujuan Penelitian	7
1.4. Metode Penelitian	7
1.5. Organisasi Penulisan	9
BAB II SŌSHOKUKEI DANSHI 「草食系男子」 KONSEP BARU MASKULINITAS DI JEPANG	11
2.1 Peran Gender Tradisional Jepang	11
2.2 Konsep Maskulinitas Jepang pada Era Baburu Keizai 「バブル経済」	13
2.3 Sŏshokukei Danshi – Konsep Baru Maskulinitas Jepang	15
2.4 Sŏshokukei Danshi – Gaya Hidup Metroseksualitas Jepang	22
2.4.1 Metroseksual	22
2.4.2 Sŏshokukei Danshi dan Gaya Hidup Metroseksual	24
2.5 Sŏshokukei Danshi – Hubungan Asmara dan Pernikahan	28
2.6 Sŏshokukei Danshi – Karir dan Pekerjaan	34

BAB III MASKULINITAS SŌSHOKUKEI DANSHI 「草食系男子」 DALAM

SERIAL DRAMA OTOMEN 「オトメン乙男」38

3.1 Representasi Sōshokukei Danshi Pada Serial Drama Otomen 38

3.1.1 Representasi Sōshokukei Danshi pada Tokoh Masamune Asuka 38

3.1.2 Representasi Sōshokukei Danshi pada Tokoh Tonomine Hajime50

3.1.3 Representasi Sōshokukei Danshi pada Tokoh Tachibana Juta 55

3.1.4 Representasi Sōshokukei Danshi pada Tokoh Yamato Ariake61

3.1.5 Representasi Sōshokukei Danshi pada Tokoh Kurokawa Kitora 62

3.2 Nilai-nilai Seksualitas yang Terdapat pada Tokoh-tokoh dalam
Serial Drama Otomen 65

3.3 Maskulinitas Soshokukei Sebagai Konsep Peran Gender Baru yang
Diakui Oleh Lingkungan Masyarakat yang Terdapat dalam Serial
Drama Otomen70

BAB IV KESIMPULAN 79

SINOPSIS vii

DAFTAR PUSTAKAxi

DAFTAR RIWAYAT HIDUP xiii